

公益社団法人日本ビリヤード協会

令和2年度 定時総会 議事録

1. 日時 令和2年6月28日(日) 13:00~17:00
2. 会場 日本スポーツオリピックスクエア3階 3号会議室
3. 出席者 南部利文、松平照康、関根沙織、東仙明彦、廣橋興光、武田淳史、森博史、
前田裕義(監事) 以上役員・敬称略
安藤敏浩、岡田将輝、奥村里香、清田篤史、田口正男、竹島欧、山根隆生
以上正会員・敬称略
記録 星野裕彦(本部事務局)
4. 開会 理事長挨拶
5. 定足数確認 議決権を有する当法人の現会員総数170名につき、議決権総数170個
本総会における有効議決権数109個、内訳は次の通り
当日出席者15名による議決権数15個
当日出席者への委任による議決権数49個
議決権行使書による議決権数45個
本総会における議事及び議決の定足数を満たす。
6. 議長選出 南部理事長が議長に選出される。
7. 議事録署名人選出 奥村里香正会員、田口正男正会員が議事録署名人に選出される。
8. 議題

第1号議案 令和元年度事業報告について

松平専務理事による令和元年度事業報告書の読み上げと補足説明が行われた。

以下、質疑応答

1. 茨城国体記念大会収支報告書検証状況の開示要請(山根正会員)
→現時点で未提出の為に未検証(関根副理事長)
2. 茨城国体デモスポ競技非開催に対する所感表明の要請(山根正会員)
→反省材料と受け止め、今後の継続開催に向けて鋭意準備中(関根副理事長)
3. 茨城県協会設立実績の報告要請(山根正会員)
→設立母体が無く断念(関根副理事長)
4. 1・2・3の上記3項目につき、重点事業の位置付けに比して実績精査検証の意識不足の印象が拭えない点に懸念を表明。重点事業相応の目標完遂に向けた真摯な努力を要請。
(山根正会員)

5. 三重県協会実態調査の報告要請（山根正会員）
→詳細な実態把握に至らずとも、当該協会所属理事との連携により活動実体存在と活動状況は認識（関根副理事長）
6. 三重県国体デモスポ競技開催展望の開示要請（山根正会員）
→開催予定のまま所管行政に申請済であることに変更無し（南部理事長）
7. 三重県協会規約の内容に欠落条項などの不備が確認され、現行「県協会設立ガイド」の機能未熟を指摘。国体正式種目参入を目標と掲げる事業理念との乖離に危機感を表明（山根正会員）
→知見を得て内容充実を図り、指導効果早期発現に鋭意努力する旨を回答（関根副理事長）
8. 協力金助成の申請者が申請先(承認機関)たり得る現下問題点の解決を要請（山根正会員）
→協力金委員会委員長と加盟団体代表者について、兼任の早期解消を確約（南部理事長）
本議案は議場に諮られ、満場一致で承認された。

第2号議案 令和元年度収支決算報告および監査報告について

東仙理事による令和元年度収支決算報告書の読み上げと内容説明が行われた。続いて、これを適正とする会計監査報告が前田監事よりなされた。

以下、質疑応答

1. 本報告における監査業務の所要時間と手法について説明を要請（山根正会員）
→時間的制約により総勘定元帳と収支決算報告書の比較照合に留まる（前田監事）
2. 仕訳段階での起票ミスが決算時まで確認できず総会に至る工程に影響を及ぼした経緯を聞き及ぶにあたり、業務粗略常態化の懸念を表明。スケジュール管理を含めた会計監査業務に精度と頻度を増して臨むよう強く要請（山根正会員）
→了承（前田監事）
3. 純増26名新規正会員加入の事業計画(予算)を大幅に下回り、加入実績が1名となった経緯と努力実態の報告を要請（山根正会員）
→各理事個人に増員努力を要請し、実績報告を理事会に於いて確認。成果は目標を著しく下回ったが、今後も勧誘活動を維持継続する旨を表明（松平専務理事）
→理事会全体の課題として責任認識共有の下、連携に基づく具体的な施策を設定し組織的な取組みを行うよう提言（山根正会員）
→前向きに検討する旨の回答（松平専務理事）
4. 低廉な実績達成度に留まった年度内の寄付金獲得活動に於ける、理事会としての努力実態の記録開示を要請（山根正会員）
→文書記録に基づく情報共有は行わず、各案件の担当理事が進捗状況報告を理事会毎に個別で行い、都度に状況に応じ連携等を対策（松平専務理事）
→前項目同様、責任認識共有の下、連携による組織的取組みを特に要請（山根正会員）
→了承（松平専務理事）
5. 事務局移転に伴う支出増加分をCSカード値上げによる増収分で賄わない公約の遵守状況に対する疑義への釈明を要請（山根正会員）
→寄付金獲得目標未達成により年度内の実現に至らず、現段階では釈明の余地が無い旨を回答（松平専務理事）

→コロナ禍で、固定支出増を寄付金獲得で賄う構想が更に実現困難な状況となるにあたり、役員自己資金補填をも辞さぬ不退転の覚悟を以って、財務状況改善の早期達成に尽力して成果を得る責任がある旨を強調（山根正会員）

6. 段級位認定料収入に関する内訳の確認（田口正会員）

→記録照会の上で報告する旨を回答（東仙理事）

本議案は議場に諮られ、満場一致で承認された。

第3号議案 役員改選について

冒頭に、議長である南部理事長から本定時総会終結時を以って全役員任期満了となる為、役員改選が必要となる旨の説明があった。

浪江隆理事・笠原一也理事の今季限りでの退任が決定しており、理事会に於いて、岡田将輝氏を新任候補者として立て、退任後の笠原一也氏を相談役として招聘する新体制で臨むべく決議されていることが南部理事長より報告された。

理事会にて選出された役員候補者について個別の採決に入る。以下、採決の結果。

理事候補者（敬称略）

廣橋興光 承認（賛 101 否 8）

武田淳史 承認（賛 109 否 0）

南部利文 承認（賛 109 否 0）

斎藤秀介 承認（賛 101 否 8）

前田義孝 承認（賛 109 否 0）

東仙明彦 承認（賛 100 否 9）

久慈薫 承認（賛 109 否 0）

肥田明 承認（賛 100 否 9）

峰大祐 承認（賛 101 否 8）

関根沙織 承認（賛 109 否 0）

松平照康 承認（賛 109 否 0）

森博史 承認（賛 109 否 0）

岡田将輝 承認（賛 101 否 8）

監事候補者（敬称略）

前田裕義 承認（賛 101 否 8）

北川幸夫 承認（賛 109 否 0）

相談役招聘（敬称略）

笠原一也 承認（賛 109 否 0）

続いて、承認された当日出席被選任者より所信の発表

松平照康…事務所業務改善・財政面健全化に注力

南部利文…理事会の一致団結を図り直面するコロナ禍を克服

関根沙織…国体関連事業に傾注

東仙明彦…事務局長として業務全般にあたり、理事会連携の支援に注力

前田裕義…経理監査の徹底

廣橋興光…ビリヤードの地位向上に貢献

武田淳史…プレイヤーの健康管理に貢献

森博史…コロナ禍対策・加盟団体との協力体制の構築

岡田將輝…新任として学習に励み、スポーツとしての地位確立を目標に尽力

以上 9 名の当日出席被選任者全員が席上で就任を承諾した。

相談役を除く当日欠席被選任者については後日の就任承諾書提出を以って就任の承諾となる。

欠席者被選任者の所信は希望者による書面閲覧とされた。

以下、質疑応答

1. 岡田將輝氏に理事就任動機が所属加盟団体を利する目的でない旨の確認（山根正会員）
→利益が相反する場面に於いても協会理事としての立場を明確にして職務にあたることはもとより覚悟の上である旨を表明（岡田新理事）
以上を以って本議案を終了する旨、南部理事長が告げる。

第 4 号議案 協力金の使用について

冒頭に、松平専務理事より本議案上程に至る経緯と背景について説明がなされた。

以下、要旨。

新型コロナウイルス感染症拡大防止協力で全公認大会の通常開催が困難な状況で、本協会は

- ・大会参加資格としての機能に鑑み、2020 年度 CS 会員登録有効期限を延長する。
- ・会員登録費減収により各加盟団体への還付金の減額は必至で、所属加盟団体に予想される大会事業関連の減収等による財政難を支援する為に、加盟団体支部分担金や協力金負担金の減免を実施する。

等の緊急支援策を実施するが、更なる財政逼迫が現実視される本部会計の資金繰りに対策を講ずる為、かかる状況下に於ける特例措置として、協力金管理分内部留保の使途目的外事業への転用の可否を本総会に諮ることが本議案の趣旨である。

質疑応答に入る

1. 現行規程の定める上限額範囲内での転用であるかの確認（山根正会員）
→範囲内に収める努力の及ばぬ不測の事態に於いて上限額を超える可能性を含む旨を回答（松平専務理事）
2. 現行規程の定める貸付(融通)期限内での償還見込みの確認（山根正会員）
→期限厳守を確約できる状況に無い旨を回答（松平専務理事）

質疑応答の内容を受け、本議案の主旨内容変更を提言（山根正会員）

以下、提言内容と論拠の要旨

承認機関を理事会に置く現行規程に抵触することが予見される内容に承認を求める本議案の主旨は内部統制の形骸化から無節操な施策へと繋がる危険性を内包する。本議案の上程には事前の規程内容改定が必須である。本年度予算に於いて想定外の事業支出増額を発生させる要素が無く、基本財産の取崩しが可能である以上、金額上限と償還期限については現行規程の定める範囲の中に収めてこれを遵守。本議場に於いては、財政危機時の資金繰りを先ずは

基本財産取崩しで対処することを前提に、協力金一時転用に至った場合の使途目的に絞ってのみ事前の総意確認を得ることで留め置くのが妥当である。

上記提言を松平専務理事が理事会を代表して受諾し、本議案の主旨内容を訂正する。

以下、訂正内容。

本議案原案を取り下げる。本年度想定される運転資金資金繰りに係る資金枯渇は、その圧縮に努めた上で基本財産の取崩しにより補填を行い、協力金からの借用(融通)に至った場合のみ協力金規程の定める金額と償還期限の範囲内で利用する理事会方針への賛同に、本総会にて総意確認を諮るものとする。

議長の指示により上記訂正内容につき採決に入り、満場一致の賛同を得る(本議案原案否決)なお、本議案に関連して、山根正会員より以下の苦言と提言がなされた。

1. 使途目的制限は協力金制度設立の根幹理念であり、安易な目的外転用は回避すべし。
2. 理事会協議に於いては、法令や内部規則に対する適合性審査意識を高めるよう要望する。
3. 協力金規程に於ける支部負担金の金額を定めた条項の改廃承認機関見直しを要望する。

松平専務理事が上記3点に対する真摯な対応を確約する。

以上を以って本議案を終了する旨、南部理事長が告げる。

その他 令和2年度事業計画・令和2年度予算(報告事項)

東仙理事による令和2年度事業計画書・令和2年度予算書の読み上げと補足説明が行われた。
以下、質疑応答

1. 栃木県協会設立状況の確認(山根正会員)
→未設立。9月末設立に向けて準備中(関根副理事長)
2. 栃木国体記念大会及びデモスポ競技の開催展望の確認(山根正会員)
→デモスポ競技は申請期限迄の対応が間に合わず開催断念。国体記念大会は開催に向けて準備中。県協会設立後に本格始動の予定(関根副理事長)
3. 国体正式種目採用を目標に見据えて立ち上げた事業展開に於いてデモスポ競技継続開催にこそ重点が置かれるべきでありながら、デモスポ開催断念を国体記念大会継続で取り繕う結果に至っていると評価せざるを得ない現況に遺憾を表明。掲げた事業目的の達成意識を高めて臨み、再発防止に努めるよう要請(山根正会員)
→了承(関根副理事長)
4. 国体対策委員会の活動内容を定めた規程・規約の存否の確認(山根正会員)
→作成の予定無し(関根副理事長)
→活動内容文書化により支援・協力の可能性が拡がる旨を提言(山根正会員)
→検討を回答(関根副理事長)
5. 本年度全日本選手権(ポケット)の支部代表枠募集告知のスケジュール確認(山根正会員)
→7月20日迄に本部に連絡し、本部より各支部に伝達(岡田新理事)
6. 未回答である関西地区JPBA 主管2大会の出場資格(CS 会員登録)確認状況報告を再要請。
(山根正会員)
→調査の上で早期回答を確約(岡田新理事)

7. 理事会オブザーバー出席可否再検討の要請（山根正会員）
→理事会での再協議を確約（南部理事長）
8. 国体関連事業マニュアル・工程表整備進行状況の確認（山根正会員）
→整備中。実地調査に基づいて随時更新し熟成を図ることを確約（関根副理事長）
9. 新規寄付金見込みの確認（山根正会員）
→現状では皆無（松平専務理事）
10. 今後の総会資料事前配布方法についての確認（山根正会員）
→郵送配布の継続を検討中（松平専務理事）
→郵送配布に拘る場合は、資料訂正事項の伝達網羅が困難となる為に、訂正不要の完全完成形添付での送付を遵守する旨を要求（山根正会員）
11. JOC カップ開催見込みの確認（山根正会員）
→年内の開催可能性を探る（松平専務理事）
12. ビリヤード大会再開基準としての協会発ガイドライン作成状況確認（山根正会員）
→原案作成済で細部調整中（武田理事）
13. 加盟団体分担金収入を新型コロナウイルス対策助成支出との両建てによって相殺する形で計上している点について実務処理方法と会計処理方法の確認（山根正会員）
→両建て表記によって相互扶助による助成の意を強調するもので、処理方法は未決。
（松平専務理事）
→実質は加盟団体分担金免除であり、予算書両建て計上により実務処理と会計処理を適切に行うことが困難である旨を指摘。予算書に準じた適切な処理の模索遂行または予算書是正を要求すると同時に、知識見識を高めて予算書作成にあたるよう要請（山根正会員）
→了承（松平専務理事）
14. 協会成立基盤の会費収入たる加盟団体分担金の免除を判断した理由の確認（山根正会員）
→業界全体が財政危機を相互扶助で克服するための施策として決断（松平専務理事）
→協会の存続が自らの存在意義にも関わる加盟団体地方支部の見地から、単年度で大幅な赤字が予想される危機的状況で加盟団体による半ば義務ともいえる支えを自ら拒む施策には疑問の余地が残る旨を指摘（山根正会員）
15. 財政立て直しに向けた中期財務計画の検討状況確認（山根正会員）
→未着手（松平専務理事）
16. 正会員からの下記要望の伝達（山根正会員）
職制に基づく職務の遂行と規程規約の遵守に注力し、加盟団体の活動指針を示す模範となつて、組織図に準拠した統率力を発揮し得る存在となることを要望する。
→叱咤激励として拝受（松平専務理事）
17. 関東エリアのスリークッション地区大会運営 2 主体間の摩擦で表面化した参加資格と段位認定に関する問題については、大会運営主体間での話し合い解決を前提にし、解決困難な状況に至っては本部采配の下に白紙化再設定による解決を図る旨を提言（山根正会員）
→提言を参考とし善処する旨を回答。トラブル再発防止の為に段位認定制度再構築の検討を付言（松平専務理事）

18. 協力金規程に於ける支部負担金の金額を定めた条項の改廃承認機関見直しを理事会に
改めて要請（山根正会員）
→理事会協議を確約（南部理事長）


9. 閉会


議長は本総会の議事が終了し、続いて別室にて行われる臨時理事会に於いて代表理事及び
業務執行理事を決定し発表する旨を告げ、閉会を宣言した。


10. 閉会後の報告

総会出席者同席のもと、下記の通り理事会新体制の報告がなされた。
・理事長 南部利文 ・副理事長 関根沙織 ・専務理事 松平照康
南部理事長より新体制を代表して就任の挨拶がなされた。
以上を以って解散となった。

以上、定款の規定により、本議事録の公正を期すため議長と出席者（正会員）2名が署名・捺印する。

議長 南部利文 

署名人 田口正男 

署名人 奥村りか 



訂正印



訂正印



訂正印